JOCV千葉OB会報

2018年8月
No. 94
夏号

1. 御宿で協力隊！　三次恵美子（広報担当：H15-1　マーシャル諸島　理数科教師）

1）地域おこし協力隊として御宿へ移住

2018 年 1 月より 10 年近く勤務した会社を辞め、千葉県御宿町で地域おこし協力隊として活動しています（地域おこし協力隊とは：人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材に地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度）。“青年海外協力隊”と“地域おこし協力隊”、同じ「協力隊」という文字がつきますが制度も実態も大きく異なります。ただ、「現地に溶け込み、地域の発展に寄与する」という原則は同じで、JOCV で必要とされた“地域の課題を発掘し、解決する能力”、“現地に溶け込み、周囲の人を巻き込む能力”は地域おこし協力隊にも求められるものだと感じています。そして、それは地域活性化に関する活動全般に言えることだと思います。青年海外協力隊として途上国で活動された皆様も、是非、過疎地域での活性化活動に携わり、途上国で培った経験を活かしてはいかがでしょうか？ 仕事を辞めるのは難しい・・という方でも、様々な方法で地域活性化に携わることができます。是非、地方に目を向けてみてください。

さて、私の活動する御宿町は、千葉県南部の太平洋側（チーバ君のお尻にあたる場所）に位置し、美しいビーチをもつリゾート地で、かつては「新宿・原宿・御宿」と言われるほどに若者が集まるスポットでした。しかしながら、現在では海水浴ブームも去り、地域での就業が難しい状況の中、都市部に若者の転出が続き、御宿町の高齢化率は千葉県一となっています。私はこの御宿町で、移住・交流促進担当として活動しています。町から依頼される移住相談や移住ガイド作成などの仕事の他、地域を盛り上げるような交流活動を独自にやらせてもらっています（写真：御宿_小浦海岸）。

2）グローバルキッチン in 御宿！

千葉 OB 会・JICA 東京共催で千葉市にて開催していた「グローバルキッチン（各国料理教室、食文化紹介）」を御宿でも開催するようになり、これまで、ペルー、ボリビア、メキシコの食文化を紹介してきました。中南米の国を多く紹介しているのは、御宿がメキシコと深いつながりを持つためです。千葉に関わりを持つ皆さんはご存知かもしれませんが、1609 年に遭難したメキシコ船を御宿の人たちが救ったところから、日本とメキシコの国交が始まっています。そのため、御宿の人たちにとってメキシコは特に思い入れのある国で、スペイン語を学習している方も多くいます。御宿という人口の少ない地域での開催ということで、人が集まるか心配でしたが、毎回町内外から多くの方に参加いただき、「初めて体験する料理ばかりで楽しかった。また参加したい」というようなお言葉をいただきます。参加できなかった方々からも「つぎはどの国についてやるの？」というお問い合わせをよくいただきます。

また、グローバルキッチンの開催の際には、前日から OB 会メンバーが御宿に集まり、地元の人も巻き込んでジビエ料理パーティーや BBQ 会を開催して、ワイワイ楽しんでいます。実は盛り上がっているグローバルキッチン in 御宿、みなさんも是非一度参加してみてください。グローバルキッチンは、今後も隔月の頻度で開催していくつもりです（グローバルキッチン（ボリビア料理の会））。

3）一緒に外房地域を盛り上げませんか？

上記にご紹介した活動以外にも「地域の交流の場兼ゲストハウス運営」「外房ラテン化計画（ラテン系のイベントを開催）」「農業体験等、各種体験」などの地域を盛り上げる活動を実施・実施予定です。興味のある方、協力してくださる方、御宿でイベントを主催したい方は是非ご連絡ください！

（三次恵美子　連絡先：emtory@gmail.com）

目次

1. 御宿で協力隊！　　三次恵美子（広報担当：H15-1　マーシャル諸島　理数科教師）
2. 報告事項
3. 現地活動レポート（派遣中隊員寄稿）

2017-2	井上　洋輔	スーダン	障害児・者支援	鎌ケ谷市
2017-1	永渕　三恵	ドミニカ共和国	日本語教育	千葉市
2017-2	高津　早由里	ケニア	コンピュータ技術	市川市
2017-2	木村　明日美	キルギス	青少年活動	流山市
2017-1	石﨑　匡晃	ベリーズ	柔道	市原市
2017-1	沼田　麻人	ザンビア	小学校教育	松戸市
2017-1	川向　典希	ザンビア	小学校教育	鴨川市
2017-2	野﨑　雅貴	ザンビア	体育	浦安市
2017-2	山崎　尚子	ベナン	コミュニティ開発	柏市
2017-1	田仲　永和	マラウイ	小学校教育	木更津市
2017-1	富田　明澄	マラウイ	理科教育	我孫子市
2017-2	小池　瑞希	ホンジュラス	助産師	千葉市
2017-1	辻村　靖子	カンボジア	青少年活動	千葉市
2017-1	髙橋　旺子	セネガル	体育	千葉市
2017-1	宮原　玲子	エクアドル	環境教育	松戸市
2017-1	佐久間　大樹	グアテマラ	野球	鎌ケ谷市
2017-1	納富　あゆみ	セネガル	看護師	松戸市
2017-2	石川　陽介	ソロモン	感染症・エイズ対策	富里市
2017-1	巻嶋　孝明	東ティモール	薬剤師	成田市
2017-1	江藤　麻子	セネガル	コミュニティ開発	佐倉市
2017-2	畠山　航也	ソロモン	看護師	千葉市
2017-2	山口　萌	パラグアイ	青少年活動	千葉市
2017-2	綿貫　大地	ベナン	コミュニティ開発	成田市
2017-1	見汐　亜斗	東ティモール	サッカー	千葉市
2017-1	鈴木　省子	セネガル	コミュニティ開発	八街市

4. 編集後記　　☆お知らせ

2. 報告事項

1）総会について

４月 14 日（土）、平成 30 年度通常総会を開催しました。場所はいつもの浦安市国際センターです。15 時のスタートでしたが、出席者は前年とほぼ同じの 20 名でした。昨年も思ったのですが、昭和派遣が意外と多く８名で、昭和 40 年代も３名でした。議事は平成 29 年度活動報告から始まり、グローバルフェスタや浦安市国際フェスタなどのイベントは前年度と全く同じでしたが、グルーバルキッチンは中心人物の鳥飼恵美子 OG の地元御宿での開催もあり、地域の活性化に貢献していると思います。

派遣中隊員への支援は 1 件で、辻村靖子カンボジア隊員（2017-1、青少年活動）から個別に依頼のあった中古ピアニカの輸送費 14 万 5 千円のうち 1 万円だけ援助しました。中古ピアニカは辻村隊員の本邦所属先の千葉市立稲毛中学校の PTA を中心に集められ、目標数 50 本を大きく上回る 115 本が集まり、クリスマス直前に任地に届き、配属先からのお礼状が送られてきました。

決算は 11 万円ほどの赤字でした。イベント関連と会報発行が前年より 12 万円強の支出増となったためです。次年度繰越金の目標 100 万円を割り込んだことは反省ですが、それだけ活発に活動した結果だと思います。嬉しいことは会費収入です。過去 3 年間 20 万円以上をキープしていますので、このままの状況が継続できれば良いなと願っています。

総会終了後は恒例となっている懇親会が開催されました。新浦安駅前のショッピングモール内の居酒屋に 15 人以上が集い、飛び入り参加もあり、楽しい語らいの場となりました。

2）JOCA 評議員会と社員総会について

6 月 23 日（土）午後、評議員会と定時社員総会が駒ケ根市にて開催されました。JOCA 本部が本年 3 月に駒ケ根市に移転して最初の大きな会合でした。今年の議事内容で一番びっくりしたのは理事役員のスリム化です。これまで会長以下理事と監事を含めて 20 名だったのが、なんと半減、理事は 8 名の少数精鋭となりました。冨永会長は 3 年で退任して新しい会長に雄谷理事長が昇格して理事長も兼務することになりました。これってアメフトで世間を騒がせている某大学の理事長と一緒かもと思うくらいの独裁体制の始まりかもしれません。議案書によると「理事数を 8 名としているのは、当会を取り巻く経営環境が著しく変化していることを踏まえ、理事会の経営判断迅速化、日常的な業務マネジメントの境界を図るとともに、OB 会組織としての機能強化を進めることを目的として、理事（会）と評議員（会）の機能、役割、運営方針を整理したことを踏まえたものです。」としています。なにかわかったようなわからない内容です。今回理事になれなかった方々の何名かは代表評議員と言う新設された肩書に就いています。この代表評議員も中途半端な機関と思うのですが、従来のブロック監事 8 名+派遣国別・職種別代表の 1 名+代表評議員 4 名の合計 13 名で構成されています。組織が変化することは悪いことではありませんが、はてさて吉と出るか凶と出るか、神のみぞ知るって感じでしょうか。OB 会としては新体制をしっかり見ていく必要があります。

尚、昨年の評議員会等で「本部移転に伴って社員等の首は切らず、適正な人事配置を行ってほしい。」とお願いしていたのですが、改めて質問したところ、事務局長から「人事ヒアリングして首切りはしていません。」との回答がありました。社員等からの不平や不満が私の耳には届いていませんから事務局長の発言を信用することにします。

事業報告と事業計画案にあった「募集関連業務」に関して、ある県から「会員から連絡があり、募説の協力に関して個別に依頼を受けたが、どのように対応したらよいか？」との質問があり、JOCA からは「募説関連業務に関しては JICA 契約が入札の結果取れず、電通が落札した。」との説明がありました。要は、JOCA は本年度以降 4 年間は募説に関われないと言うことです。ただ、JOCA が受託できなかったというものの、これからは電通が主体となって募説を行うのですから各県 OB 会として何もしないという選択肢はないと思いますので、これまで通り対応すべきと考えています。

3）こまがね大使村まつりについて

6 月 24 日（日）、JOCA 評議員会等開催の翌日は第 1 回こまがね大使村まつりが開催されました。当日は前日の雨天が嘘のような快晴のお天気に恵まれ、子供たちによる駒ケ根太鼓の大きな響きからまつりがスタートしました。大使村まつりには第 1 回と言うこともあり 9 ヶ国（ブルキナファソ、ミクロネシア、パラオ、ドモニカ、ホンジュラス、バングラデシュ、マラウイ、ネパール、ベナン）の大使館が出店して飲食や民芸品の販売、観光パンフレットの配布等がありました。駒ケ根駅前はかなりシャッター通り化しており、JOCA 本部移転を契機に駒ケ根市が活性化すれば良いなと思いましたが、この日ばかりは大勢の市民の皆さんも会場に足を運び大いににぎわいました。ご来賓も多く、長野県副知事、外務省室長、JICA 副理事長などなど多士済々。来賓挨拶の多さが少しだけ気にはなりましたが、それだけ力が入ったことの現れ、ミクロネシア大使は流ちょうな日本語でのご挨拶、パラオ大使は英語でしたが、なかなかほっこりする内容で、祭りに華を添えた感じでした。両大使ともに前日から駒ケ根市に来られており、JOCA の懇親会にもお顔を見せられていました。まつり前日の夜は JOCA 主催の懇親会の後、全国から参集した評議員や会員などが二次会として駒ケ根市中心部の飲み屋街？に繰り出しました。あらかじめ協力してくれる飲食店等を募り、各店 10 名程度になるようにくじ引きで飲み食いする場所が決められました。このアイデアはなかなかのヒットで、お店に入るとお通しや前菜が用意されており、駒ケ根市民の皆さんともお話することができ、飲むほどに酔うほどに駒ケ根の街は更けていくのでした。

3. 現地活動レポート（派遣中隊員寄稿）

2017-2　井上洋輔　スーダン　障害児・者支援　鎌ケ谷市

スーダンのハルツーム州バハリという町にある特別支援学校が私の配属先です。知的障害を持った７歳～１６歳の子供たちが通っています。私が担当しているクラスはダウン症や自閉症の障害を持った子供たちがいます。配属したばかりは座りっぱなしの授業ばかりで、子供達は体力が有り余っている様子でした。なので、私はボーリングや輪投げなどのアクティビティを取り入れ、体を動かして楽しみながら、数や日常生活のスキルを学ぶ授業をしています。最初は順番を守れない子や取り組めない子が多かったです。しかし、ルールがあることを伝え続け、できたら一緒に喜ぶことを繰り返し続けました。今では順番を守り、真剣に取り組んでくれている子供も増え、友達を応援する子供も増えてきました。授業が終わると子供達が「ブクラ！ブクラ！（明日も！）」と笑顔で言ってくれるのはとても嬉しいことです。

【輪投げのアクティビティ】

スーダンでは、ほとんどがイスラム教徒です。町にはモスクがたくさんあり、金曜日にはみんなモスクに集まり礼拝をしています。スーダンの人達はとても優しく、道を歩いていたら「朝ごはん一緒に食べよう！」と誘ってくれたり、バスで少し話しただけなのに「バス代払っておいたよ」と言ってくれたりと毎日スーダン人の優しさに驚いています。挨拶をするときは必ず握手をして「元気か？」と相手を気遣う言葉をかけてくれます。いつも笑顔で、誰に対しても当たり前に優しく接するスーダン人が私は大好きです。

スーダンの食事には必ず豆料理が出ると言っていいほど、豆がとても有名です。市場に行くとピーナッツがたくさん売っています。ピーナッツはアラビア語で「フールスーダーニー」と言い、日本語に直すと「スーダンの豆」です。ピーナッツといえば千葉県の特産品なので、「私が住んでいた千葉県もピーナッツが有名だよ！」「千葉県のフールスーダーニーもとっても美味しいよ！」とピーナッツトークでスーダン人と盛り上がっています。スーダンと千葉県の共通点であるピーナッツ。もともと好きでしたが、このおかげでピーナッツのことがより好きになりました。スーダンでピーナッツを食べ、故郷の千葉県を思い出しています（笑）

【スーダンのピーナッツ】

2017-1　永渕三恵　ドミニカ共和国　日本語教育　千葉市

私の配属先は、ドミニカ共和国の首都サントドミンゴにある、国内唯一の国立大学であるサントドミンゴ自治大学（UASD）です。そこの言語センターで一般公開講座として１週間に２回、１コマ２時間の日本語クラスとカウンターパートが教えているクラスの教案チェックや授業見学、フィードバックなどを行っています。６月に言語センター内で学ばれている全ての言語の卒業式があり、私もカウンターパートと参加してきました。この１年の間にカリキュラムを修了した学生たちはガウンと帽子を身に着けて、誇らしげに修了証書を持っていました。また年に一度、校内で日本文化イベントを開催し、日本の昔のおもちゃやお箸の使い方、折り紙や浴衣の着付けなどのブースや日本語のミニクラスや学生による日本の文化紹介など、少しでもドミニカ人に日本に興味を持ってもらえるような機会を作っています。今年の４月には中国語を教えている台湾のボランティアと一緒にアジア文化イベントを行いました。同じアジア圏の言語ボランティア共催のイベントは近隣国においても前例がないとのことで、無事に終わってよかったです。配属先以外でもドミニカ日本語教師会を通して、日本語スピーチコンテストの運営や教師会での勉強会の開催、また現地教師などの中米カリブの日本語教師で構成されている中米カリブ日本語教育ネットワークの繋がりにより、他国の日本語教師たちと情報共有もしています。

【実際に教えている日本語クラスにて】

皆さんはドミニカ共和国がどこにあるかご存知ですか。アメリカ大陸のベネズエラの北、キューバの南東、ジャマイカの東、プエルトリコの西にイスパニョーラ島があります。その島の中に２つの国があり、西側にハイチ、東側に「ドミニカ共和国」があります。近くにドミニカ国という似た名前の国がありますが、そちらは旧イギリス領で別の国となります。任国である「ドミニカ共和国」はまさにイメージ通りのカリブの島です。
主な産業は観光業や農業等で、日本へはカカオやコーヒーなどが輸出されています。ラム酒や野球、バナナや葉巻なども有名ですが、この国だけで採れるカリブの海を閉じ込めたような青い「ラリマール」と呼ばれる鉱石と琥珀もあります。他の国と比べて珍しいのが、主食にお米があり、白菜や長ネギなど日本でも見かける野菜をスーパーで目にすることが出来ます。日本人が農業移民として入られ、ドミニカに野菜の礎を築きました。これは大きな功績です。そして暑い国の人には珍しく辛いのが苦手な国民性で、辛い食べ物はほとんどありません。日本人には苦いイメージのコーヒーもエスプレッソサイズにお砂糖をたくさん入れて飲んでいます。もうすぐ１年目が終わりますが、折り返しの残り一年でこの国の踊りである「バチャータ」や「メレンゲ」、ゲームの「ドミノ」を少しでも上手くなって帰ってきたいと思います。

【卒業式（学生とカウンターパートと）】

2017-2　高津早由里　ケニア　コンピュータ技術　市川市

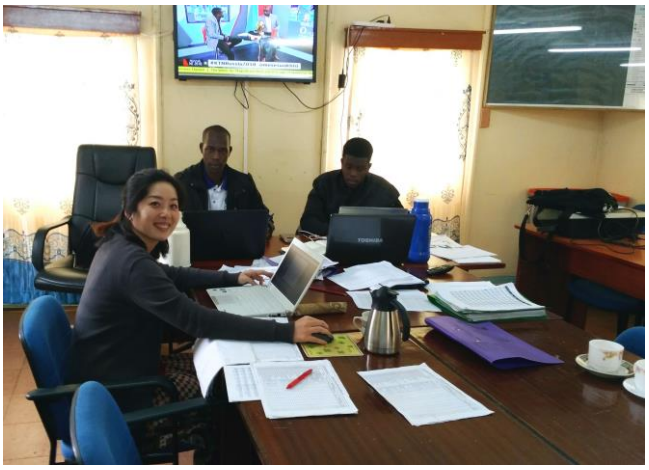
2017 年 10 月からコンピュータ技術でケニアに派遣されています。ケニアと言えばマラソン選手を思い浮かべる方も多いと思いますが、私の任地であるカプサベットはそんなケニアのマラソン選手が練習をする場所でもあります。標高 2000m に位置し、赤道に近いにも関わらず朝晩はとても涼しいです。お茶畑が広がるのどかな景色の町でもあります。

私はこのカプサベットにある水道会社で活動を行っています。もともとの要請は GIS というあらゆる情報と地図を組み合わせて分析する技術の支援でした。前任のボランティアが半分以上配管地図を作成したと聞いていたので、それを引き継ぎ地図を完成させることが活動の中心になるかと思っていたのですが、いざ来てみたら今は地図よりももっと重大な問題があるとのこと。どうやら料金の支払いシステムがあまりよくないようなのです。実際に触らせてもらうと確かに操作性はよくありません。それでも今はこの支払いシステムですべての顧客情報や支払情報を管理しているということで、私も試行錯誤しながらこのシステムから全データを取り出してみようと思いました。GIS は地図だけでなく、そこに組み合 わせる情報が必要なので、これは後々必ず役に立つと思ったのです。その作業中に気づいたシステムの改善案なども提案できればと考えていました。

【活動場所である水道会社外観】

ところがそれからしばらくして急に援助要請が寄せられました。聞けばすべての情報を見直したいと言うではありませんか。システムに蓄積されている情報が間違っている可能性があるようなのです。細かく見ていくと、様々な人的ミスから顧客に膨大な水道料金を請求してしまっていたり、クレームが来たのかそれを適当に調整してしまっていたり、システムエラーで支払いが二重に計上されていることもあり、これでは正確な利益を把握することもできません。本当に GIS どころの話ではなかったのです。

今はスタッフと一緒に少しずつデータを見直しているところです。私の任期はあと一年と数か月。その間に情報がすべてクリーンになり、支払いシステムももう少し使いやすくなり、スタッフが GIS という新たな技術に目を向けるだけの余裕ができればいいなと思っています。私は GIS の専門家でもなければ水道会社で働いた経験もありませんが、ここにいる人たちと楽しく毎日を過ごしながら、少しでも彼らの役に立てればと、日々活動しています。



【キャプション…スタッフと共に情報精査中】

2017-2　木村明日美　キルギス共和国 青少年活動　流山市

こんにちは。2017 年度 2 次隊でキルギス共和国に派遣中の木村明日美と申します。私は青少年活動隊員として、子供教育センター（学童や児童館のような場所）で図工と日本語を教えています。私の配属された子供教育センターにはダンスやコムズ（キルギスの伝統弦楽器）、言語（英語とロシア語）、チェス、絵画、服飾、フェルト細工のクラブがあり、図工の先生（カウンターパート）はコムズのクラブを兼任しており図工はほぼしておらず、最初は何をしていいのかわからない状態でした。私にできることはなんだろう、と色々なことを試す日々が続き、ホームステイの家や他の家でもペチカ（暖炉兼ゴミ焼却炉兼コンロ）になんでも焚べる様子を見て、ゴミをなんとか活用できないか、とリサイクル工作をすることにしました。私のリサイクル工作が軌道に乗るとカウンターパートはコムズの授業に専念することになり、協働するカウンターパートがいなくなってしまいました。今の課題としては、授業で環境教育的な指導をより取り入れて行くことと、絵画やフェルト細工、服飾などの色んな先生にカウンターパートとして協力を仰ぎ、協働することです。

キルギスでの生活は、日本では味わえないものばかりです。私は首都からマルシュルートカ（バス）で 6 時間半、ウスククル（琵琶湖の 9 倍の湖）の東岸のカラコルという町の近くのアクスー村でホームステイをしています。毎日の食卓には飼っている羊を屠殺（ソイ）して得る肉が並びます。正直に言うと食事はかなり油っぽく、羊肉はクセが強いのですが、ソイを目の当たりにすると、羊肉は苦手だから食べられないなんて言えなくなります。日々、食卓の肉にソイされる前の羊の姿を思い浮かべて、いただいています。

キルギスに来てから、空を見ることが多いです。見上げなくとも遠くに富士山より高い山々が見え、真っ青な空、流れる雲、近くの山肌を飾る雲の影と放牧されてる家畜達の群れが当たり前にそこにあります。キルギスに来て 8 ヶ月、黄金の秋、−15℃の冬、雪解けの春を一通り見て来ました。キルギスの一番いい季節は夏とのことですが、どの季節も最高に綺麗で、その美しさに感動するたびに、キルギスに来られた幸せを噛み締めます。残り 1 年ちょっとで、もっとキルギスとキルギス人に近付きたい。そして、沢山の幸せをくれたキルギスに恩返ししたい。そう感じている最近です。

【カラコルのカフェやゲストハウスに呼びかけ、牛乳やジュースの空きパックをもらって工作】

【あらゆる部位の肉が食卓に上がります】

2017-1　石﨑匡晃　ベリーズ　柔道　市原市

中米７カ国の１つであるベリーズは、北はメキシコ、東と南はグアテマラと接し、カリブ海に面している人口３０万人程度の国です。マヤ遺跡や、ブルーホール、世界第２位の規模を誇るバリアリーフなどが有名な観光立国でもあります。人口は少ないですが、メスティーソ（マヤ人とヨーロッパ人の混血）、クレオール（アフリカ系民族とヨーロッパ人の混血）、マヤ、ガリフナ（アフリカ系民族とカリブ現地人の混血）、インディアン、メノナイト（欧州から移住して来たキリスト教メノナイト教派）、中国人などが共生している文化豊かな国です。その中で日本人はとても少ないです。私が主に活動しているベリーズシティはクレオール文化が強く、ライスアンドビーンズという、お米を赤豆とココナッツオイルで炊き込んだご飯と、シチューチキンという鶏肉の煮込み料理が有名です。日本人にも食べやすく、優しい味だと思います。

【ライスアンドビーンズ（左側）とシチューチキン（右側）】

ベリーズへの柔道隊員の派遣は私が初めてで、昨年７月にベリーズ柔道協会に配属されました。同国での柔道の知名度は低く、修行人口は大人３０名程度、子供１５０名程度しかおりません。私は柔道協会の技術担当として、３つの柔道クラブを巡回して子供クラスおよび大人クラスを指導しています。赴任当初は、多くのことが日本と違い、大きな戸惑いを感じました。大人も子供も練習開始に平気で遅れてくることに腹を立ててしまうこともありました。もうすぐ派遣されてから約１年が経ちますが、少しずつ練習開始に来てくれる方も増えています。また、柔道の技術や礼法も上達が見られ、活動の成果が少しずつですが出始めていることに嬉しさを感じています。子供達への指導では、子供にどうしたら集中して楽しく稽古に取り組んでもらえるかが課題でしたが、ベリーズ国内で活動する教師隊員たちにアドバイスをもらい、練習にゲーム性を持たせたりすることで、少しずつ子供達に集中してもらえるようになって来ました。巡回指導以外では、中米大会への参加、昇級審査の制定と実施、柔道協会のウェブサイト作成、基本技術のビデオ作成などを行なっています。活動の残り一年で、ベリーズ人指導者達が黒帯（初段）のレベルまで上達するよう手助けをし、ベリーズでの安全で正しい柔道普及のための土台作りができればと思います。

【小学生への柔道指導の様子】

2017-1　沼田麻人　ザンビア　小学校教育　松戸市

通勤時にダウンジャケットを羽織る。朝は息が白くなる日もある。でも、太陽がのぼるとたちまち半そででも平気なくらいの気温になる。今は６月、「寒い乾期」とよばれる季節だ。乾期は洗濯物がすぐかわく。「暑い乾期」になれば、洗濯物はしばらずに干してもあっという間にかわくようになる。

ザンビアのご飯はおいしいけど、料理の種類はすくない。レストランもすくない。ザンビアはモノもすくない。日本では商品を「えらぶ」ことができるが、ザンビアではあまり選択の余地がない。でも、それでこまることもない。生活に必要なものは買いそろえることができるから。もしかしたら、日本での選択肢がおおすぎるだけなのかもしれない。

思った以上に充実していたのはネット環境だった。Wi-Fi が日本と同じように利用できる。YouTube のお世話になっている隊員も多い。Amazon で注文した品物もルサカまでならとどくらしい。電子書籍のデータなら 1 分でダウンロードできる。日本語の本が簡単に読めるのはうれしい。新刊も発売後すぐに読める。スマホのアプリやゲームのダウンロードもスムーズだ。

私の活動内容は小中一貫校で算数を教えること。対象は 5～7 年生となっている。授業は英語でおこなっている。私の英語もつたないが、生徒の英語力にもかなり差がある。そういう中で授業をすることに戸惑いもあったが、１年でだいぶ慣れてきた。

戸惑ったことといえば、教師の質問に生徒は必ず Yes と返答する。理解できていなくても YES!と言う。先生の質問の意味がよくわからなくても声をそろえて YES!と叫ぶ。その光景だけ切り取ると、とてつもなく素晴らしい教室に見える。実際は、かなしくなるほど理解していない時もある。そういう時は学習内容をさかのぼって教えるようにしている。

勤務校でやってみて成果が出たのは、百マス計算と名簿を教室の壁にはることだ。百マス計算は学力が低い生徒も取り組める課題だ。だから、宿題で毎回とりくませた。以前は、宿題の提出率が３０％以下だった。授業と同じ内容を宿題に出しても、家で自力で回答を出せる子は半数もいないからだ。百マス計算にしてからは提出率が上がった。さらに、宿題をやってきたら印をつけるための名簿を教室に掲示するようにした。それによって、宿題の提出率が９０％近くまであがった。のこりの任期で百マス計算と名簿のはり出しを現地の先生方に浸透させたいと思っている。

【教室に掲示した名簿。宿題をやってきたらチェック。たまにシールを貼ると生徒のやる気もアップ！】

【体育の授業。円になって手拍子に合わせておどる。体育の時は私服に着替える】

2017-1　川向典希　ザンビア　小学校教育　鴨川市

Mwapoleni mukwai！　こんにちは！

私は現職教員特別参加制度で中学の頃から夢だった協力隊に参加させていただいています。首都からバスで７時間ほどの場所にある小さな町で小学５、６年生対象に算数の指導をしています。

大切なのは言葉？　やはり言葉の壁は高かったです。生活する分には訓練所で勉強したので困らないけれど、仕事となると必要な言葉の種類も数も違ってきます。言いたいことが言えないもどかしさ。日本では簡単にできたことができない。最初はそのストレスが大きく、よく体調を崩していました。日本の児童相手なら簡単に指導できるのに、言葉が出ない…。「なんのためにここに来たのだろう」と思い、一人泣くこともありました。

けれど、心配して毎日声をかけてくれる先生がいました。また数人の子どもたちも「算数をやりたい」と言い、学校が終わった後も一緒にかけ算九九の練習をしたり、折り紙をしたりして過ごしました。お互いに英語が流暢なわけではないので沈黙もありましたが、言葉も肌の色も違う子どもたちと同じ空間で過ごすだけで、心が温かくなったような気がしました。そんな小さなことを繰り返すうちに、徐々に子どもや先生方との関係を築くことができていったような気がします。言葉以上に大切なのは、互いを思いやる気持ちなのだと学びました。

算数で小数点×小数点の筆算の仕方を教える場面がありました。整数×整数と同じく数字は右揃えで書き、計算をし、最後に小数点をうちます。しかし途中で担任と教育実習生２人が「このやり方は間違っている」「小数点の位置を揃えて数字を書いてから計算するのよ。」と言い出したのです。もちろん、最終的な小数点の位置が違うことになってしまいます。しかし、先生方も子どもたちも数量感

覚がないため、答えがおかしいということには気づきませんでした。一気にアウェイの雰囲気となり、ザンビア人の笑いものになりました。いつもは何も言い返せない私も、子どものことを思うと黙っているわけにはいかず、拙い英語で必死に説明をしました。しかし、向こうも必死の抵抗。自分のやり方が違うということを認めず・・・。最後に担任は「どちらのやり方もあっているわ。」と言って終わりました。プライドが高いのか、間違いを認めない文化なのかもしれません。けれど、子どもは私の教えたやり方で計算練習を行ってくれました。大切なもの（子どもたち）を前にした時に、きちんとぶつかることの大切さを感じました。

任期もあとわずか…。言葉も文化も異なるザンビアでの活動は、決して楽しいことばかりではありません。しかし、ここにいられることに感謝し、誰かの心に残る人になれるよう、残りの期間も精一杯活動していきたいと思います。

2017-2　野﨑雅貴　ザンビア　体育　　浦安市

Muli shani??　初めまして。私は 2017 年度 2 次隊でアフリカのザンビアに派遣されている野﨑雅貴です。職種は体育です。出身は、ディズニーのあることで有名な浦安市です。Muli shani とは、ザンビアの現地で使われているベンバ語という言語で、ご機嫌いかが？といった意味合いで使われています。私は毎日元気ですが、そろそろミッキーが恋しいといったところでしょうか。

・新卒でザンビアの先生

私は、首都から 3 時間ほど離れた街、Kabwe の Chindwin A secondary school という学校で活動をしています。生徒数は 900 人程度で、日本の中 2～高 3 までの学年の子供達がいます。私の現在の主な活動は体育の実技授業の実施、実技教科書の作成、サッカー部の指導の 3 つです。

ザンビアの体育は理論が 70%、実技が 30%と実技が非常に少ないです。そのため、生徒たちは一生懸命黒板に書かれたコートのサイズや、ルールを写しているのが日常です。先生達も、実技授業のやり方がわからず、あまりやりたがりません。私はなるべく外で授業ができるように先生達と相談しながら、各学年週 1 回は実技を行うようにしています。本来であれば、現地の先生と一緒に授業を行い、少しでも日本の体育のやり方などを知ってくれたらいいなと思いますが、授業やらなくていいからラッキー！とどこかへ行ってしまいます。笑　しかしこれまで何人かの先生は、自ら実技授業を行い、アドバイスを求めてきました。彼らの意欲を大切に、少しでも授業内容の向上のサポートができればなと思います。（もちろんしつこく誘い続けます）

・日常の癒し

ザンビアの魅力を紹介するときに多くの人がヴィクトリアの滝を勧めると思います。私も一度見に行き、大自然に圧倒された身なので本当は紹介したいところですが、一番の魅力は空だと思っています。

私は朝焼けと夕焼けが特に好きで、これは朝ランニングをしているときに撮りました。ザンビアの空はとにかく広くて、青いです。日本にいるときはなかなか空をゆっくり見る機会がありませんでしたが、活動で悩んだり、気持ちが沈んでいるときにふと空を見ると、どこか感動してしまい、明日も頑張ろうと思えます。

私は最近「ボランティア」という言葉に悩まされます。ザンビアに来る前は、何かザンビアの教育に貢献し、成果を残したいという思いが強くありました。しかし、実際に派遣されてみると、私が教えるよりも教わることの方が多いです。初めは計画通りに活動が進まないことに苛立ちを感じました。しかし、時間が経つにつれザンビア人の優しさ、温かさに触れ、私自身が彼らのことをどこか見下していたことにも気づかされました。そして、「ボランティア」とは何が正解なのだろうと考えてしまいます。押し付けすぎず、引き受けすぎず、この加減が非常に難しいですが、帰国前に自分なりの答えが見つかるよう、日々活動していきたいと思います！

2017-2　山崎尚子　ベナン　コミュニティ開発　柏市

西アフリカのベナン共和国に2017年10月より赴任しています。私の任地は、首都からバスでおよそ 10 時間離れたナガイレ村という小さな村です。住民は、農業、出稼ぎ、小口商売などで生計を立てています。アニ族を中心にさまざまな民族が暮らしており、話されている言語も実に 10 以上。イスラム教徒が多数派ですが、キリスト教徒もいて、平和に共存しています。島国日本とは異なり、様々な人や文化が混ざり合って一つの村を作っています。

村に電気は通っていますが、停電は頻繁。水道はほとんど通っていません。多くの村民が井戸水を汲み、庭先で薪や炭火を使って煮炊きする、そんな昔ながらの生活を送っています。私の家は、敷地内に水道が通っていますが、住民と同じ生活を送ろうと、なるべく井戸を使うようにしています。乾季と雨季での井戸水の水位の変化、水質の変化、体調を崩しているときの水汲みの大変さ、上手に水を汲み上げるコツ・・・私にとってはすべてが初めての体験です。

乾季明けの今は雨が降るようになったものの、井戸水の水位はまだ戻りません。枯れている井戸も多くあります。村には共有水道が数カ所あり、お金を払って水を買うこともできますが、誰でもアクセスできるわけではありません。遠くの井戸や水道まで、家族全員分の水を汲みに行く作業は重労働。女性や子どもたちの仕事です。

生活は、日本と比べれば不便で厳しいのかもしれません。しかし、住民にとってはこれが日常です。すべてのものを無駄なく使い、自然を最大限に活用する知恵が豊富。私にとっては、学ぶことばかりの毎日です。異文化が出会うって、お互いにとっては学ぶことばかりなんですよね。今の私には、「なくても暮らせる」ようになることが、豊かさでもあります。

とはいえ、生きる上での困難さがないわけではありません。清潔な水や食事をとることが難しかったり、怪我や病気のリスクがたくさんあったりします。ひとたび体調を崩してしまうと、農作業中心の仕事はもちろん、生活することすら大変です。だからこそ、村では、大家族で支え合って暮らしています。また、住民同士もお互いに助け合って暮らしています。

私の活動は、このように生活環境が「厳しく」、「貧しい」住民が多い村において、住民の生活改善を行うことです。ともに働く「カウンターパート」がいないため、とにかくたくさん歩き、住民と話し、地道に現状把握と信頼関係の構築に努める日々が続いています。着任から半年以上経ち、やっと村の成り立ちや人間関係の形が少しずつ見えてきたところです。また、住民と同じように生活しようと試みるなかで、その豊かさだけではなく、困難さにも気づくようになりました。

音楽と踊りを愛し、人との距離が近く、優しくてたくましいナガイレ村の人たち。彼らに恩返しできるよう、残りの任期を焦らずさぼらず、地道に活動していきたいと思っています。

【年に一度の村の誕生祭。お祭り用の布を買って、仕立て、みんなでお揃いの格好。言うまでもなく、左端が筆者】

【村の風景。左に見えるカラフルな建物はモスク。小さい村ながらモスクはたくさんある。】

2017-1　田仲永和　マラウイ　小学校教育　木更津市

私は小学校教員の指導力向上のため、首都リロングウェの小学校教員養成大学に配属されています。全校約 450 人、全寮制の本校は、ほんの一握りのマラウイ人しか進めない高等教育機関の一つですが、教員の給料が日本円で約１万円という低賃金ということも影響し、残念なことに「小学校教員になりたい気持ちはなかったが、他の選択肢がなく、仕方なくこの学校にきた。」という、モチベーションが低い学生が多く在籍しているのが、日本の教員養成大学と大きく違う点です。そんな学生に対して、算数科・体育科の授業を担当し、その指導法の改善

がなされるべく、授業を行っています。

マラウイでは子どもたちの算数の理解度が低く、その向上が喫緊の課題となっています。試行錯誤しながら学生への授業を組み立てる毎日ですが、現場を知らないとどのような改善ができるのかわからない、という思いから、空き時間を使って大学附属小学校にも顔を出し、自分が作成した教材を使って先生方に授業を行ってもらっています。実践した結果を大学に持ち帰り、学生たちに「こういう反応があった。」「子どもたちが納得できる説明ができた。」など、小学校での授業のフィードバックをもとに授業をすることもあります。

マラウイの子どもたちの算数理解度の低さの原因を、私は大きく２つ考えています。１つ目は「概念的理解の欠如」、２つ目は「計算練習量の圧倒的な不足」です。特に最近では、１つ目の「概念的理解の欠如」を解決するための、モデル教材を多く作成し、紹介しています。日本のように黒板が磁石式ではないため、モデルを作っても、うまく提示できないという現状があります。そこで、麻袋とコットンウールが互いにくっつく性質を利用し、『Tanaka’s Magic Board』を開発しました。磁石の代わりにコットンウール、磁石式黒板の代わりに麻袋を使うわけです。これらの素材は任地でも容易に手に入り、材料費も手頃です。これにより、数を数える活動や図形の操作など、今まで教室の後ろの方の子どもたちには見えづらかった活動がより見えやすくなったり、子どもたちも操作したりすることができるようになったことで、理解度が深まり、子どもたちにも先生方にも好評です。

赴任した去年、大学の始業が４か月遅れたり、今年に入ってからも学生デモの関係で授業がストップしたり、自分の家の水は未だに３か月以上ストップしているままだったり、日本から見ると「何それ！？」と思えるような状況かも知れませんが、逆に言えば日本ではできない貴重な経験。こんな経験をさせていただいていることに感謝しかありません。

【Tanaka’s Magic Board を使った図形の体積の授業】

【具体物を使って容積の概念をつかませる授業】

2017-1　富田明澄　マラウイ　理科教育　我孫子市

2017年７月より、現職教員特別参加制度を利用してアフリカのマラウイ共和国で理科教員をしています。月～水曜は、配属先であるマンゴチ中高等学校で生物の授業を担当し、木・金曜はそれぞれ自転車で約３０分の場所にある中高等学校へ巡回し、物理と化学のチームティーチングを行っています。

マラウイの生徒は良く挙手をする上に、リアクションも盛大なので、授業がとても盛り上がります。「これわかる人？」と聞いた途端、私を指して！と言わんばかりに指を鳴らしながら沢山の生徒が勢いよく挙手をします。例え間違えようともあまり気にしないようです。「いや、これが合ってるんだよ先生！」とさえ言われたこともあります。人にどう思われるかではなく、自分がどうしたいかという気持ちで動く、そんな国民性がマラウイには強くあるように感じます。また、思ったことはその場で包み隠さず表現するので、教室や職員室で口論している姿を度々見かけます。しかし事が終わればケロッと笑顔でさようなら。そんな自分に正直で真っ直ぐなマラウイ人の心が私は大好きです。

思っていた以上に日本とのギャップを感じたものの一つに“授業の優先度”があります。まずマラウイでは時間があってないようなものなので、時間割通り 40 分×9 コマの授業が実施される日は皆無です。また会議や掃除、急な予定変更でいとも簡単に授業が潰れます。日本では授業最優先で、職員会議も朝や放課後、時には昼休みを使って行われていましたが、マラウイでは“教員の空き時間に授業を行う”こんな表現がぴったりなのです…。何の為、誰の為の学校なのかという違和感、そしてこの体質を少しでも変えていかない限りマラウイの教育、延いては国の発展は望めないのではないかと思う気持ちから、同僚に異を唱えることもしばしば…。しかしその反面、これが何十年も前から続いてきた文化なのだから受け止めた上で私が

出来る事をすべきなのではと考える自分も居ます。絶対的な答えはないとわかりつつ、国際理解と国際協力、この似て非なるもののような２つの按排の難しさを感じる毎日です。

外出することが大好きだった私が、家に居ることが好きになり、気にならなかったことが気になってしまったり、その逆も然り。マラウイに来てから思いがけない様々な変化が身に起こりました。そして強く思った事、それは“自分らしさ”というものが絶対的ではなく、周りの環境あってこそ成り立っていたという事です。マラウイの環境に囲まれ、今後更に自身がどのような化学反応を起こしていくのか、そんな事も楽しみの一つにしつつ、日本の教育に還元できるような経験を積んで帰国まで精一杯過ごしたいと思います。

【配属先での授業の様子。机は無く、椅子も十分にない中で生徒たちは学んでいます。マラウイの伝統布「チテンジ」で作った洋服を着ています。】

【授業が終わっても、初めて見る顕微鏡の世界に興味津々の子供たち。この顕微鏡も日本から寄付されたものです。】

2017-2　小池瑞希　ホンジュラス　助産師　千葉市

任地は、首都からバスで７時間程かかるレンピーラ県レパエラです。山と空に囲まれた天空の街です。所属は母子保健センターで、救急外来と分娩施設、妊婦の家を兼ね備え、利用は無料です。お産は１ヶ月40件程です。村からの交通が不便であり、中には４時間程かけて受診をする方もいます。出産が近い妊婦さんは、分娩施設に隣接する妊婦の家で出産まで過ごすことができ、お産まで安全に生活しやすい仕組みになっています。妊婦の家にはキッチン、ベッド、シャワーや洗濯場が備わっており、食材は無料です。

ホンジュラスで生活を始めて８ヶ月が経過しました。スペイン語を使うことは難しいですが、周囲の人々に教えて頂きながら活動をしています。活動の１つとして、活動場や村で衛生や栄養、妊婦指導等を現地の人々と共に行っているところです。現地や人々の生活に合わせた正しい知識を普及できるように、村の生活を学びながら進めています。妊婦さんの中には最終学歴が小学校の方や識字が困難な方、若年妊娠、多産婦も多いです。そのため知識の普及に向けてイメージしやすい物やイラスト、アクティビティを取り入れながら分かりやすい方法で伝えられるように、模索しています。

【村での乳幼児の体重測定】

派遣前にホンジュラスとネットで検索すると怖い情報ばかりに目がいっていました。実際にホンジュラスで生活をしてみると任地は落ち着いていることもあり、家族との繋がりが強く、あたたかさを感じることもあります。人々は明るく、気さくに声を掛け合っています。また笑顔が素敵であり、学ぶことが多くあります。現地の人にとって日本人が珍しいためか、着任当初は道を通るたびに周囲の視線を感じていました。生活をするにつれ、知り合いも増え、声をかけられるようになってきました。現地の人は日本の文化に興味を持っており、アニメではド

ラゴンボール、食事では寿司の知名度は高いものの、中国語を話せるの？読めるの？どう違うの？とよく聞かれます。機会がある時には日本文化紹介をしております。特に名前を日本語で書くこと、箸の使い方、折紙をすることは人気があります。

伝統的食事としてトルティーヤと一緒に塩味のインゲン豆のペースト、揚げたバナナ、鶏肉が１つのプレートになっています。油や塩を使った料理が多いです。有名なのは、コーヒーです。様々な地域でコーヒーが育てられており、それぞれ味も異なり面白いです。ホンジュラスコーヒーを飲む機会がありましたら、ぜひお試しください。

【妊婦の家での妊婦指導】

2017-1　辻村靖子　カンボジア　青少年活動　千葉市

私は、ポーサット州青少年スポーツ局青少年課という、各地域の学校の生徒会や地域のボーイスカウトの運営や教員養成など、多岐にわたる業務を行う課に配属されています。活動は、一週間のあいだに小・中・教員養成校の３校で、『ピアニカを使った音楽活動』を巡回指導しています。内戦の影響で、情操教育はほとんど整っておらず、音楽（歌や楽器など）に関しては教えられる人はごく僅かです。なので、体育や音楽の分野での協力隊への要請は多いです。また、スマホを持つ多くのカンボジア人は、Facebook で各国ボランティアがピアニカを指導した生徒の動画をシェアする文化があり、「私たちの学校（州）にも音楽を！」と強く願う教育関係者は多いです。任地の事情をあまり知らずに赴任した私は、まさか指導するための道具であるピアニカが任地に存在しないなんて、考えてもいませんでした。ピアニカをどうやって集めるべきか、そこからが活動のスタートでした。そこで頭に浮かんだのは、「日本には学校で使ったピアニカをそのまま家で眠らせている人が多いのではないか・・・」ということです。私は現職派遣なので、勤務先の中学校に協力を要請し、OB 会や様々な方々のおカを借り、１１５台もの中古ピアニカをカンボジアに送ることができました。そのお陰で、ピアニカを使った指導を始めることができ、現地の先生方も音楽に関心を持ち始めてくれました。物資だけの支援で留まってしまわぬよう、これから継続的な活動を残せるように頑張ります。

【活動の様子：巡回校のひとつである、小学校でのひとコマ。日本から送ってもらったピアニカを使って指の使い方の授業をしているところです。】

赴任前と赴任後で一番印象が変わったことは、『カンボジア人は働き者』ということです。朝４～５時前後に町は動きだし、お店が出始め、学生は朝６時から補習を受けています。日中の一番暑い時間は、仕事や学校から一旦家に戻り、２～３時間の眺めの昼休憩があるため、朝の行動はとても早いです。

また、気候は乾季と雨季に分かれていますが、特に雨季の田舎の景色は絶景です。稲作が盛んなカンボジア。真緑に揺れる稲と、カラっと晴れた青空、道路と行儀よく並んで歩く、愛くるしい水牛や牛たち。トゥクトゥクに乗って眺めるこの景色、最高です。もちろん、雨季の雨には悩まされることも。道路の排水設備があまり整っていないところばかりで、大雨の後は膝上まで水浸しで、近所の子どもたちはその雨で埋もれた道路で泳いだりするほどです。

のどかな任地では、見知らぬ外国人の私にも、目が合うとにっこり微笑んでくれます。日本に帰国後、私もあらゆる見知らぬ人ににこっと微笑んでしまいそうです・・・。（怪しまれてしまう？）

【雨季、巡回校の雨の日のあとのひとコマ。雨季のものすごい降水量でうもってしまった、小学校。この日は学校に入れないので、学校はお休みでした。】

2017-1　髙橋旺子　セネガル　体育　千葉市

セネガルはアフリカ大陸の西の端にある国です。わたしはセネガルのティエス市教育委員会に体育隊員として派遣されて、現地の小学校や中学校で体育の普及・教員の指導力向上を目標として活動しています。普及が活動内容になっている通り、セネガルの小学校では体育の授業がほとんど実施されていません。なぜ？運動が嫌いなのかな…というわけではなく、大人も子どももサッカー大好き！W 杯の盛り上がりもすごいです。（ロシアワールドカップでは日本とセネガルが同じグループで予選を戦いましたね！）道端やちょっとした空き地があればそこはたちまち彼らのサッカーコートになります。またバスケや空手、柔道も人気ですし、夕方になると筋トレやランニングをする姿もよく見られます。そしてダンス！セネガルのダンスは体を大きく激しく使うダンスなのですが、セネガルでは日常に太鼓のリズムが溢れていて小さなころから体に染みついているので、太鼓の音が聞こえるとみんな踊りだします。

このように、大人も子どもも体を動かす楽しさを知っているのに、「小学校」で「授業」となるととたんに運動が行われなくなってしまう…何が教員を体育から遠ざけているのか。「暑い」「子どもの人数が多くて大変（人数が多いクラスでは 90 以上児童がいることも）」「体育は成績に入らない（試験がない）からやらなくてもよい」「（自分が授業を受けてきておらず）教え方がわからない」などなど、やらない理由は挙げればきりがありません。確かに、毎回運動会の学年練習のような人数を相手に授業を行うのは容易ではありません。それでも、もともと運動を楽しむ心を持っている人たちなのだから、教員たちが感じるハードルを取り除いたり低くしたりすることで体育の授業が行われるようになるのではないか…

そこで、学校全体として運動に向かう機会を作る、運動の楽しさを共有する場を作る、という目的で活動先の小学校で運動会を実施しました。運動会を企画して時間割に全クラスの体育の時間が確保され、準備すること 1 か月、運動会は大盛り上がりの大成功に終わりました。先生たちのモチベーションアップにもつながり、運動会の後も体育の授業を続けて行うことができています。運動会は体育の授業を始める良いきっかけとなりました。今後も体育の授業が継続して行われるように、先生たち、子どもたちと活動していきたいと思います。

【綱引き（2 年生）の様子】

【当日は保護者の方、地域の方がたくさん来てくれました】

2017-1　宮原玲子　エクアドル　環境教育　松戸市

こんにちは。私は現在、南米エクアドルにあるサモラ・チンチペ県・ジャンササ市という街で、市役所の廃棄物管理課に所属し、環境教育隊員活動を行っています。任地の人口は約２万４千人の小さな街で、中心地区と２つの農村地区に区分けされており、地区ごとにコミュニティが広がっています。活動内容は、住民に対する環境啓発活動、主に学校などでの講演活動、生ごみをたい肥化するコンポスト手法の紹介、最終処分場での活動などです。環境啓発活動は、主に学校などで環境保護に関する授業などを行い、あわせて日本文化などについてもこどもたちに紹介しています。小さいこどもたちは日本のこどもたちに比べとても元気で活発なので、まだまだ拙いスペイン語で話をする私の話に集中してもらうには難しい部分もありますが、日本の写真を見せたり、一緒に折り紙を折ったり、映像を見せたりするなどして、工夫して授業を行いました。今後さらに参加型の内容が行えるように、他の隊員の活動も参考にしながら、実施してみたいと考えています。また、任地には３つのごみ分別回収システムがあります。これはエクアドル全土を見ても、分別回収を行う数少ない自治体の一つでもあります。このようなシステムを持っていながらも、なかなか分別するという習慣

が定着しづらい現状もあり、意識を習慣化し、定着させるということの難しさを感じますが、住民たちに対し、どのようにアプローチしていくか、日々考えながら、活動を行っています。

任国であるエクアドルはその名前が表すように、赤道直下に位置する国です。赤道という言葉から想像するのは、暑い暑い熱帯気候かもしれませんが、エクアドルは国内の中で地域によって４つの気候地帯に分かれており、この気候地帯によって気候はもちろん、植物、食べ物、生活様式などの異なる生活習慣や文化、異なる景色を持っています。アンデス山脈沿いに広がるシエラ地域、海岸沿いのコスタ地域、アマゾン気候のオリエンテ地域、ガラパゴス諸島に分かれ、シエラ地域は標高も高く、日中以外は寒く、人々はダウンを着て生活しています。海沿いのコスタ地域は湿気の多い暑い気候でエクアドル人にとってのリゾート地が多く存在する地域、世界遺産のガラパゴス諸島は一年を通し過ごしやすい気候となっています。

また、私の任地であるジャンササ市は、エクアドル東南部に位置しており、ブラジルやペルーに近いオリエンテ地域に属しており、ここでは日中は太陽が照り、雨も豊富に降るあたたかな熱帯気候を味わうことができます。温暖な気候のため、果物も豊富に採れ、緑が青々と茂る自然豊かなきれいな景色に囲まれており、人々もまた、そんな任地の大自然をとても身近に感じながら日々生活しています。このように一つの国で異なる国のように異なる気候を持っているエクアドルには、気候地帯ごとの大自然がたくさんあり、これはこの国の大きな魅力の一つだと日々感じています。

【学校での授業風景】

【ごみ回収車から眺める任地ののどかな風景】

2017-1　佐久間　大樹　グアテマラ　野球　鎌ケ谷市

2017年６月末に派遣され、活動任期の半分が終わりました。任地に赴任したのが、つい昨日のようです。私は、小学生から高校生を対象に野球の指導・普及をしております。配属先であるキチェ県野球協会は長期ボランティアの受け入れは初めてではある上に、競技人口が少なく、現地に野球を広めるべく種を蒔いていくような活動をしています。

私の任地は中米最後の内戦と言われたグアテマラの紛争の中でも特に激戦が繰り広げられた地であったことも影響してか、非常に内向的な住民が多く、また古代マヤ文明の原住民族も数多く存在し、マヤ言語を話す人も多く、公用語であるスペイン語が通じない場合もあります。また、貧富の差も激しく、市場や公園では働く子供たちを多く見かけます。

そんな環境下で野球を普及させる意義は何なのか、なぜボランティアがこの地に求められたのか自問自答しながらも、少しずつ活動を進め、実を結び始めてきた１年でした。今年３月には福岡県にある北九州市立大学から学生 12 名と短期ボランティア１名の 13 名がグアテマラへ１か月間派遣され、私の任地を含めた国内３か所で野球教室や親善試合を行い、７月からは任地で活動を行っている学校が参加する市内小学校対抗野球大会を開催する予定です。また、県都である私の任地以外に野球協会に所属するチームはなかったのですが、近隣他市にて出張野球教室を実施し、将来的には県大会が開催できればと考えています。

【12 歳以下全国大会地区予選に参加した際の集合写真。結果は全敗でしたが、少しずつですが確実に成長しています。後列一番右が小生。（2018 年５月４日撮影）】

言葉をはじめ、文化や習慣、物事に対する考え方などが日本とは大きく異なることに戸惑いながらも、その違いを楽しみながら生活をしています。例えば、集合時間通りに相手が来ない為に連絡をすると決まって、「もう着くよ。」と言われるのですが、30 分後にやって来ることもしばしば。はじめは、困りましたがこれだけおおらかに時間の流れをゆったりと考えながら生活することも悪くないなと思えるようになってきました。

今から、日本の社会にしっかりと復帰できるのか心配なりますが、残り１年となったグアテマラでの生活を存分に楽しむと同時に、活動面においても帰国までに何か１つ、小さくても成果を出せるよう、より一層精進していきたいと思います。

【任地であるグアテマラ共和国キチェ県サンタクルスデルキチェ市のセマナサンタと呼ばれるカトリック系キリスト教の聖週間の金曜日(ビエルネス　サント)に向けて花びらや着色した木屑、松の葉などを道路に敷き詰める花絨毯を準備している人々と街の教会。（2018 年３月 29 日撮影）】

2017-1　納富あゆみ　セネガル　看護師　松戸市

任地のジョフィオールでは、村の人に向けた啓発活動と学校保健を中心に行っています。配属から半年以上かけて配属先の保健区（日本での保健所のような役所）が管轄する地域を知るために村を巡回しました。その中で、村の住人で啓発活動を行う人や女性や子どもの相談に女性が村の人々へ健康に関する大きな影響を与えている事、医療者と住民を繋いでいると知る事ができました。現在は、保健に関わる住民の啓発活動に参加させてもらったり、一緒に啓発活動を行っています（写真：村での啓発活動）。学校保健では、小学校の先生と協力して保健の授業を行っています。多くの子どもが嘔吐や下痢で来院している事、好き嫌いのある子どもが多いように感じたため、小学校で手洗いや栄養についての授業を行っています（写真：小学校での栄養授業）。また、セネガル隊員の中で同じ分野で活動する隊員の集まりである医療会の活動として、他の隊員の任地でも手洗いについての啓発を行なっています。

今後は、村での啓発活動の継続と幼稚園や中学校での保健の授業など行って行きたいと思います。

【小学校での栄養についての授業】

【村での啓発活動】

朝食は、フランスパンに野菜や豆を煮たものを挟み、カフェトゥーバ（非常に甘いコーヒーのようなもの）かキンキリバ（非常に甘い紅茶のようなもの）とともに食べます。私も、屋台のような朝食屋さんで任地の人と会話しながら朝食をとっています。昼食は、主にお米と野菜、魚か肉をワンプレートで食べます（写真：セネガルの代表料理）。夕食には、穀物に甘いヨーグルトやミルクを混ぜたものを食べます。私の任地ジョフィオールでは、夕食に食べる穀物にヨーグルトの組み合わせを朝やおやつに食べたりもします。

【セネガル代表料理チェブジェン】

多くの人々がイスラム教を信仰しています。私の住む街にもモスクがあり、お祈りの時間になると町中でコーランが聞こえます。マラブーと呼ばれる宗教指導者の写真を多くの家庭で見る事ができます。日々のお祈りは個人差があるように思います。同僚の中には、仕事を中断しお祈りをする方もいれば、できる時間にはお祈りをするという方もいます。

多くの人が、私にとても親切にしてくれます。村で道に迷っても、道を尋ねると仕事を中断し、私が探している場所まで連れて行ってくれます。お昼を食べにおいでと誘ってくれたり、イスラム教のお祝い事に誘ってくれたり、子どもが生まれた時に行う命名式やお葬式にまで声をかけてくれます。私を、コミュニティの一員として受け入れてくれているように感じます。

2017-2　石川陽介　ソロモン　感染症・エイズ対策　富里市

任国であるソロモン諸島は約 1000 の島々からなり、全国９州と首都ホニアラ市で構成されています。私の任地はガダルカナル島にあり、日本にとっては、W.W.Ⅱの最激戦地として深く関係しています。郊外に行くと慰霊碑や戦時中の補給船、砲台を幾つか見る事が出来ます。

公用語は英語、生活使用言語はピジン語（Broken English）が使われています。その他に、ソロモンでは約 100 程度の地域言語（ラングース）が使われています。

ピジン語の使用例は、「私」の事を Mi (ミー)、「仕事」の事を Waka（ワカ）等と使います。例えばですが、「私の名前は石川陽介です。ガダルカナル州のマラリアオフィサーとして働いています。」は、ピジン語では「 Nem blong mi Yosuke Ishikawa. Distaem mi waka lo G-Province lo Malaria officer. 」（ネム ビロング ミー ヨウスケイシカワ。ディスタイム ミー ワカ ロ ジープロヴィンス ロ マラリアオフィサー） と表現されます。今では、咄嗟に口に出る一人称は、“I”では無く、“Mi” に染まってしまいました。

主食はイモ類、お米、ツナ缶などですが、特に紹介したいのは果物です。南国のイメージそのままに果物が豊富で、ココナッツ、パパイヤ、パイナップル、マンゴーなどのトロピカルフルーツはどれも安くて 美味しいです。また、マーケットでは沢山の種類のバナナがお手頃な価格で売られており、その種類は一説に百種類あるとも言われています。

【ローカルマーケット風景】

私はガダルカナル州政府でマラリア対策活動に従事しています。ソロモン諸島は一時期に比べるとマラリア罹患率の削減に成功しましたが、依然首都近郊を中心に高い罹患率で推移しています。私の活動内容はマラリア罹患率の更なる低減を目標に、マラリア対策活動の実施支援、コミュニティにおける啓発活動の実施支援、パソコンの操作などの業務を通じて配属先スタッ

フの能力向上を図る活動をしています。

予算の関係で出張する事が叶わない、ソロモンタイムと呼ばれる独特の時間感覚でスケジュールが遅れる、中止になる、等はしょっちゅうの事で、もどかしさを感じる事もありますが、郷に入っては郷に従えの精神でソロモン人の感覚に寄り添ってボランティア活動を進めています。

任国に到着してから９ヶ月が経過して、文化の違いに驚いたり、戸惑ったりすることも減って、ソロモンでの生活に慣れてきました。大らかなソロモン人に支えられて、楽しくもハプニングに満ちた刺激的な毎日を過ごしています。活動については試行錯誤の日々が続いていますが、残り１年３ヶ月、沢山のことを学びつつ、ソロモンに貢献していきたいと思います。そして、元気な姿で日本、そして千葉県に戻ってきたいと思います！

【配属先でのプレゼンテーション】

2017-1　巻嶋孝明　東ティモール　薬剤師　成田市

千葉県のみなさん Diak ka lae？（お元気ですか？）

私は、東ティモールの首都のディリから東へ120ｋｍ離れた、バウカウ県で薬剤師として活動しています。配属先機関は保健省管轄のバウカウ県病院で、病床数 130 床、スタッフ 200 名、24 時間救急を備えた近隣 3 県を管轄する地域拠点病院です。現地薬剤師の技術力の向上と医薬品の発注および保管方法の助言を行っていくことを目的として派遣されています。現在の主な活動内容は、病院内の薬局で、現地の薬剤師と共に患者さんから処方箋を受け取り、飲み合わせや用量などを確認し患者さんに薬の飲み方や注意点などを説明して薬を渡しています。また、病院は、国の慢性的な予算不足で約３分の 1 の薬が欠品という大きな問題を抱えています。そのため、日本で培った経験をもとに、適正な発注点の構築、手作りの軟膏の作製や医師に大替え薬の提案などもしています。

東ティモールには、マタンドークと呼ばれる伝統医療を施すことができる祈祷師がいます。マタンドークは悩みや症状をしっかり聞いたうえで治療してくれるから、という理由で、病院でなくマタンドークを選択する人も多いです。国民の医療に対する不信は根深いものがあるので、私たちが適切な医療を提供して人々の医療に対する考え方を少しずつ変えていかなくてはならないと考えています。

【職場の同僚とワニが出るワタボウビーチでの写真】

【職場の同僚との写真】

東ティモールというと知らない方も多いと思います。インドネシア南東、オーストラリア北西にある 21 世紀最初に独立国した新しい国です。平均年齢は 18.8 歳で国民の 7 割が 30 歳以下という非常に若い国なので活気があります。公用語はポルトガル語ですが、現地語のテトゥン語や昔の名残からインドネシア語を話す人が多いです。人口は 120 万人、面積は東京・神奈川・千葉・埼玉の合計と同じくらいです。ティモール島はワニの形をしており、そのことからワニによって作られた島だと言い伝えがあり、ワニを神様だと拝められています。私の任地にもワニがいるので、海水浴をするときは食べられないように注意が必要です。

東ティモール人はとても愛嬌があり、私が任地を歩いている

とＴＡＫＡ！と多くの人が笑顔で挨拶してくれます。特に地方で活動することは、人と人とのとても距離が近く、食事、ミサや冠婚葬祭などに誘われたりして、現地の人と同じ目線で問題について考えられるようになりました。休日の過ごし方は、職場の人と過ごすことが多いです。地方は映画館などの娯楽施設がないので、ティモール人・インドネシア人・キューバ人・フィリピン人と一緒にご飯を作り、映画鑑賞や雑談をしながら過ごしていることが多いです。

【地域の子供に折り紙を教えている写真】

2017-1　江藤麻子　セネガル　コミュニティ開発　佐倉市

アッサラームアレイクム！

皆さん、こんにちは。アフリカ大陸の最西端に位置するセネガルに、2017 年７月から派遣されている江藤と申します。職種は、コミュニティ開発(旧村落開発普及員)で、セネガル人も知らないンギディレ(Nguidilé)市という小さな市の小さな市役所で元気に活動しています。

セネガルについては、先日のサッカーワールドカップ第２戦で、日本の対戦相手になった為、皆さんの耳にも新しいのではないでしょうか。任国が日本で紹介され、それを観た家族や友人から「麻子が居るからか、何かセネガルが身近に感じるよ」という言葉を貰うと、『自分がここで活動していること自体にも意味があるのかもしれない』と思い、とても嬉しくなる今日この頃です。

活動は、ンギディレ市に属する 63 の村の女性グループをターゲットとして、収入向上や生活改善の提案・実施が求められています。地図上にも載っていないような村も多く、まだすべての村に足を運べていませんが、市役所が５つの村に作った市場の利用活性化に向けた提案や、家庭で女性が行っている養鶏に焦点を当て、勉強会やマーケティング指導をしたく、セネガル人に協力してもらえるように働きかけたりしています。セネガルでは、セネガル人も認めるほどにお祭り事が多く、そのときに食べられるのがチェブギナー(鶏チャーハン)という料理です。なので、お祭りに向けて鶏をたくさん飼育し、売ることで、収入向上が見込めるのではないかと今は、考えています。

【村の女性団体に活動の意図を伝えています。】

地図にも載っていない 63 の村に行く手段は、125cc 小型バイク(ヤマハ製)です。セネガルでは数少ないバイク隊員として、村々をこの相棒と一緒に回っています。やっと、ウインカーを出しながらも、直進し続ける車や道路に飛び出してくる牛や山羊、毎日転んでいた砂道にも慣れ、１日平均 20～30km を移動しています。そもそもバイクを運転する女性がセネガルにはおらず、且つ、外国人ともなると注目の的です。目撃情報が光の速さで任地を駆け巡るので、何を買ったか？何を運んだか？誰と一緒に居たか？みんなに知られてしまいます。初めて会った人にも「お前、今日はバイクどうした？」と聞かれてしまうほど、覚えて貰えているみたいです。

【こちらがセネガルでの私の相棒です。】

まだまだお伝えしたいことは、山のようにあるのですが、ここでは書き切れないので、ぜひ１度、テランガ(おもてなし)の国セネガルに遊びに来てください。喜んでご案内させていただきます。

2017-2　畠山航也　ソロモン　看護師　千葉市

私は現在、青年海外協力隊の看護師として南太平洋にあるソロモン諸島に派遣されています。ここでは現地病院での通常看護業務の傍ら、スタッフに対して院内感染コントロール、業務効率化、医療機器管理等の指導を行うことが私の要請内容です。

ソロモン諸島は日本と比べると人々の習慣や文化、気候、生活環境、医療資源など大きく異なります。日本で過ごしていたのと同様の価値観、考え方では困難に直面することが多々あります。例えば、乾期の際には水不足により病院内の水道が止まり手が洗えなくなったり、薬剤や医療物資の遅延により必要な医療を提供できなくなるといったことが起きます。日本では当たり前であった環境が、突然失われると、日本人である私はどうすればいいのかと思考が停止してしまいます。しかし、そのような状況下でもソロモン人が工夫を凝らし対応している姿に逆に学ばせてもらっていることが多々あります。一方で、日本の病院と比べるとまだまだ改善できることがソロモンにはたくさんあります。ソロモン人の柔軟性と力強さ、日本人の勤勉性と細かな配慮をうまく融合させて行くことで、限られた資源環境の中でも私たちができる最善の看護を追求できればと考えています。

【院内スタッフと患者さんとの写真】

また、ソロモン諸島は大小合わせて 1000 以上の島々から成り立っている島国であり、移動手段は車ではなくボートがメインとなります。患者の搬送から、買い物、出勤などにはボートが欠かせず、海が荒れている日などでは本当に生活、仕事が滞ってしまうほどソロモンと海、ボートは切り離して考えることはできません。そのボート移動の際に海上に鳥の群れを見ることがあります。その海面下には、マグロやカツオといった大型回遊魚に追われた小魚が群がっています。ボート移動の最中に鳥群を発見すると、進路を変更し、ボートから疑似餌を引っ張りながら、鳥群の間を通過すると大型魚をいとも簡単に釣り上げることができます。私も先日、20kg 前後の大きな Spanish Mackerel（サワラ）を釣ることができ、日本では体験できないような刺激的な経験をしています。

【Spanish markerel を釣った写真】

言語や異なる環境での活動は容易ではなく自分の不甲斐なさに悩むことも多いです。当初は、私がソロモン人を助けるために行くという考えしかありませんでした。しかし、いざソロモン諸島にくるとソロモン人の優しさ、おおらかさに何度も助けられている自分がいました。そんなソロモン諸島のために少しでも私が貢献できることをしたいとの想いで、現在は活動しています。

2017-2　山口　萌　パラグアイ　青少年活動　千葉市

私は2017年度２次隊で青少年活動の隊員としてパラグアイ共和国のグアイラ県イトゥルベ市に派遣されました。私はイトゥルベ市役所、青少年課配属され現在、４校の小学校と文化センターを巡回し、週に約 240 人の児童に英語を教えています。イトゥルベ市の小学校では、音楽、図工、体育の授業などの情操教育が充分に実施されていません。また町の人たちが強く英語の指導を希望したため、情操教育を取り入れた英語学習の巡回授業を実施することにしました。町の学校から農村部の小学校まで２km～６km の道を自転車で巡回しています。授業内容は歌やダンス、お絵かきやものづくり、長縄とびなどのスポーツを通して英語を教えています。感じて、考えて、みんなで楽しむ授業づくりを目指して毎日奮闘しています。

そして着任してから１年が経とうとしている今、配属先のイトゥルベ市役所の青少年課管轄による中高生の青少年グループ

の結成を考えています。「イトゥルベ市の青少年によるイトゥルベ市の子どもたちのための団体」です。彼らの町の子どもたちのために、青少年たちがイベントやレクリエーション、青少年地域課題についての講演会を企画、運営をするものです。ひとりひとりが役割を持ち、ひとつのものをみんなで力を合わせて作り上げるということのノウハウとやり甲斐を伝えると共に、リーダーの育成にも力を入れて行く予定です。私の任期の終了と同時に解散となってしまわないためにも、市役所と連携をとって、初代青少年グループとして継続的な活動にするための基盤となる形を残したいと思います。また私の企画で残りの１年間で文化センターと農村部の学校でダンス教室を開講する予定です。パラグアイではまだあまり広まっていないジャンルのダンスを中心に教えていこうと思います。

【先生の日】

＊巡回している学校のひとつの「先生の日」の学校行事で、私の教えている２年生、３年生の英語のクラスが英語の曲を歌って発表した時の様子です。みんなで少ない練習時間の中で、一生懸命練習しました。本番もみんな大きな声と、笑顔でやり切りました。みんなの頑張る姿がとても感動的でした。

これまでの活動を振り返ると、信じられないほどの速さで時間が流れたように感じます。着任当初は、スペイン語もグアラニー語もほとんど分からず、町も人も知らない所から始まり、新しい生活環境や異文化を順応し受け入れ、毎日普通に生活すること自体が挑戦でした。その中で、初めてのプロジェクトの英語巡回授業を通して時間をかけ人間関係を構築してきました。今ここでの生活の中で日々感じることは、私自身も私の活動も、任地の人々に支えられているということです。任地の人々には感謝の気持ちでいっぱいです。残りの１年３ヶ月も「人との繋がり」を何よりも大切に、感謝の気持ちと何事も楽しむ気持ちを忘れずに、任地の人々と力を合わせて頑張っていきます。

「農道」

＊巡回先の学校に行く途中の農道。赤土のアップダウンの激しい道ではありますが、学校帰りに見える夕焼けや、雲ひとつない晴れた大自然の中を自転車で走る時間は、とても贅沢でお気に入りの時間です。

2017-2　綿貫大地　ベナン　コミュニティ開発　成田市

赴任時から１か月程度は語学訓練が中心で、約１か月後に任地に赴任されました。私の赴任先はベナン最大の都市であるコトヌーから車で４時間ほどのコヴェという町です。町の中心には市場や教会、市役所やホテルなどがありヒトやモノの流れが活発ですが、少し奥に入れば、アフリカらしい家屋や風景が広がります。日常の買い物にはそこまで不自由しない、一方で田舎の人の好さが残る、“ちょうどよく過ごしやすい町”と個人的に感じております。

配属先はコヴェ農業開発支所という公共の機関で、各作物の専門家が農家に専門的なアドバイスをしたり、農産省から支給された種や肥料を農家に配布するという役割を担っています。しかし、私がちょうど配属された時期が組織再編の真っ最中で、実質的に主な活動をしていないのが現状でした。決まりきったルーティンワークや定期ミーテイングがあるわけではありません。そこで私は、できるだけ町を知ること、さらに活動のアイデアを探るため、市場調査という名の散歩を中心に行っていました。散歩だけしかしていないのかと思われるかもしれませんが、この活動によって町の人に自分を覚えてもらい、さらには後の活動につながる出会いもありました。話しかけられたら立ち止まることはもちろんのこと、面白そうなことがあれば自分から積極的に話しかけていきました。

そして、ベナンに赴任してから約３か月が経ったころ、自分の活動基盤が見えてきました。それが、農家グループと障がい者グループ、さらに落花生加工の女性グループです。ここコヴェでは公的支援が受けやすいということから、グループ化が進ん

でいました。上記のグループのほぼすべてが先ほどの市場調査時の出会いから交流が始まりました。

【コヴェ市長と私】

全グループへの貢献目標はメンバーの収入向上と生活改善ということで共通しておりますが、今回は障がい者グループについて記載したいと思います。

障がい者グループの活動年数は約２２年と長くメンバーも２０人以上います。定例会議を月に１度行っています。私が調査したところでは、国や市からの金銭的支援は全くなし。よって手当や割引もありません。公的な支援も１年に１回あるかないか。これがベナンでの障がい者支援の実態です。福祉センターと呼ばれるところがあるにはありますが、松葉杖などの器具を提供してくれることもある、といった程度の支援しかしていないそうです。さらに、アメリカ政府の援助によって建てられた、ウサギ養殖と養鶏用の建物がありましたが、養殖を開始するというタイミングで支援がストップしてしまったそうです。
何とか、今あるものを活用して収入向上につなげられないかと考えた私は、これも市場調査（散歩）によって得た人脈からマイクロファイナンス*の銀行に勤めている知人を紹介し、中心メンバーによる収支計画書の作成をお手伝いして、約２万円の出資に成功しました。“現地にあるもので本人たちが自律性をもって前に進んでいくことが大事である”、これは私が国際協力する上でのモットーです。

現在は、毎月おカネの管理をメンバーとともに注視し、配属先である農業開発支所の養殖専門家にウサギ養殖の進捗を定期的にチェックしてもらっています。さらにウサギの数を増やし、障がい者グループのメンバーがより良い生活をできるための収入向上に一日でも早くつなげられるよう、今後も日々邁進していきたいと思います。

【障がい者グループ】

＊マイクロファイナンス（小規模金融） とは、貧しい人々に小口の融資や貯蓄などのサービスを提供し、彼らが零細事業の運営に役立て、自立し、貧困から脱出することを目指す金融サービス

2017-1　見汐亜斗　東ティモール　サッカー　千葉市

私は東ティモール第二の都市といわれるバウカウで活動しています。首都と比べると都市と呼ぶには程遠いですが、緑が豊かで海もあり、風光明媚な景色が特徴の町です。また、農業が盛んといわれ、市場には時期毎に旬の野菜や果物がたくさん並んでいます。特に木曜日と日曜日には誰でも参加できるバザーも行われるため、その日の市場は現地の人たちで溢れかえり、活気のある様子がうかがえます。

バウカウの人々は、活動的で、とにかく陽気な性格です。その一方で、自己主張が強く頑固な面もありますが、一度親しい関係を築くと、外国から来た私たちに対しても家族の一員として見てくれ、時には親のように心配してくれたり、困ったことがあると一人暮らしの私に手を差し伸べてくれたりと大切に接してくれます。このような、日本ではなくなりつつある人の温かさに触れる出来事もたくさんありました。

そんなバウカウの町の中で、私はNGOで小中高生を対象に、サッカーの指導を行なっています。それを通じて、子どもたちの将来に向けた成長のサポートをすることが目的です。現在は、約 80 名の子どもたちが学校を終えた後、課外活動のような形で、日々の練習に参加しています。私は現地の指導者と共に、子どもたちの育成のためのより良い環境づくりを目指し、実践練習に加え、練習メニューのマニュアル作成や、実践練習がより効果的に行えるようにルールや戦術についての座学も行なっています。

他にも、子どもたちが目標を持って練習に取り組めるように

と思い、日本で小学生の時に配布された「縄跳び達成シート」を参考に、サッカーの目標達成シートを作成し、技術力をステップアップできるような仕組みを取り入れました。はじめは一回挑戦してできないと諦めてしまう子ばかりでしたが、２ヶ月、３ヶ月と続けていくうちに、少しずつ達成できる子が出てきて、できるようになった子ができない子を教える姿も目にするようになりました。中には、ボールを借りて家で練習する子もおり、練習が始まる１時間も前から私を待ち「できるようになったから見てほしい！」と意気揚々と技を披露してくれた時のその子の表情が、今でも心に残っています。

このような活動を通して、家庭にサッカーボールがあることが珍しいこの国で、一人でも多くの子どもたちにボールに触れられる機会をつくり、サッカーの楽しさを伝えていきたいです。

【活動の様子】

【市場の様子】

2017-1　鈴木省子　セネガル　コミュニティ開発　八街市

カオラック州ニオロ県ワクングナ郡ワクングナ市が私の任地です。首都ダカールからセットプラスという乗り合いタクシーを乗り継いで５時間ほどの距離にあるガンビアに近い地域です。コミュニティ開発としてワクングナ郡地域開発支援センターに派遣され、任地付近の女性グループと一緒に活動をしています。主に３つの女性グループと活動しています。女性グループの活動は食品製造しているグループと、野菜を栽培して販売しているグループ（２グループ）があります。

食品製造しているのは WackⅡという名前で、ワクングナを拠点に活動している女性グループです。製造している商品はミレ・ドゥグダ（ひえ・あわ）、テゲテゲ（ピーナッツペースト）、ドゥーリンゲルテ（ピーナッツオイル）です。現在ワクングナでテゲテゲを利用したお菓子を作って市場で販売をしています。今後ダカール等の大きい都市で商品や商品を使ったお菓子を販売していこうと考えています。

野菜を栽培している２グループは、ワクングナからバイクで15 分ほど離れた村を拠点に活動しています。１つのグループはミントを販売して収入を得るサイクルが定着しているので、栽培する野菜を増やしていきたいです。また、もう１つのグループは栽培を行っていないのが現状なので、野菜栽培を始められるように支援したいと考える。

【一緒に活動している女性グループと一緒に水やりをする道具を作ったので、実際に使ってもらっている写真。後で、使い心地や改善点について意見交換をしました。】

セネガルは国民の 90%がイスラム教徒ということが影響してか、持っている人が持っていない人に対して何かをあげることは普通です。私も実際、50ｆする水が買いたいけれど 25ｆ

しかもっていないから買えない。と言うと水を 25ｆで売ってくれたり、時にはお店の人が私に水をくれたりします。食事に関してもそうで、道を歩いているだけで家にお昼ご飯を食べにおいでと誘ってくれて、実際にご馳走してくれます。そのあとのお茶（アターヤ）も飲ませてくれます。私みたいな外国人を家にいれてくれて、ご飯までご馳走してくれて、セネガル人は懐が深いなと毎回感激します。そして、料理がとても美味しいです！料理の種類はたくさんありますが、私はチェブジェンブホンコ（魚と野菜を一緒に煮込んだご飯）が大好きです。

任地での生活は、ここに来る前に思っていたものとはやはり違いました。トタン屋根にぼっとん便所、ネズミや虫はもちろん想定内でしたが、ワクングナの人たちが外国人と同じ地域に生活することに慣れていなく、最初は石を投げられたり、サッカーボールをわざと背中にけられたり、外国人だからお金をだまし取ろうとされたり、なかなか日本ではない経験もありました。任地に馴染む、仲良くなる、私のことを知ってもらうことがとても大切で、それが無いと活動は始まらないと感じました。赴任から 1 年たってやっとワクングナのみんなが私について少し分かってくれたような気がします。セネガルでの名前であるマリアムを、挨拶する時、すれ違う時や遠くからマリアーム！元気かー？と気にかけてくれて、ワクングナの人たちの温かさを感じます。

【一緒に活動している女性の家で赤ちゃんを抱っこしている写真。だいたい外国人を見たことがないため、号泣する子供も多いが、この子は特に泣かずに抱っこさせてくれました。赤ちゃんの腰に見える赤いものはお守りです。】

4.編集後記

今回のページ数は前回の過去最大 20 ページの記録を更新して、なんと 24 ページになりました。派遣中隊員殻の寄稿が多かったのが要因ですが、活き活きとした隊員たちの活動を読んでいると元気をもらいます。

～お知らせ～

ホームページのご紹介

当会ホームページにて、定例会/協力隊ナビ/講演会/懇親会等、各種イベントのスケジュールや、活動報告を掲載しています。URL は下記ですが、「青年海外協力隊千葉 OB 会」で検索していただくことでもアクセスできますので、是非ともご覧ください。

青年海外協力隊 千葉 OB 会 ホームページ： http://www.jocvchiba.net/

メーリングリスト/facebook グループのご案内

上記ホームページにて、当会のメーリングリストと facebook グループへの参加をご案内しております。是非ご参加ください。

連絡先 お問い合わせや会報への寄稿は info@jocvchiba.net までお願いします。